

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075600124
法人名	社会福祉法人 若宮会
事業所名	グループホーム わきたの里
所在地	福岡県宮若市脇田 805番地 (電話) 0949-54-1082

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町 3-1-7		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年10月16日

【情報提供票より】 (平成19年9月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年9月7日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低	76歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 笠松会 有吉病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、自然に囲まれた緑の多い山間部に位置し、母体法人が運営する特別養護老人ホームに併設されている。運営者は事業所建設の際、近隣事業所の見学を重ねるなどして、転倒時に衝撃が和らぐ床材の使用や、換気や採光にこだわる等、広くて住み心地の良い事業所を造り上げている。「慈愛の心」と「尊厳を守る」を理念に、利用者が自分の家と思えるような、ゆったりとした利用者本位の人情味のある雰囲気作りを心がけている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、改善項目を一覧表にまとめ、介護計画の見直しの期間やマニュアルの作成等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で話し合い、また管理者が全職員の意見を集約して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際等を報告し、委員からサービス向上に向けての助言・意見等を得ている。また、会議録を家族に開示し、事業所の運営について理解を得られるよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族来訪時や利用者の状態変化時等、必要に応じて電話による利用者の状況報告を行っている。また、行事等の写真を来訪した家族に見せて配ったり、運営推進会議の記録を開示する等、事業所の報告に努めている。金銭管理については、家族に対して収支の報告をわかりやすく行うよう検討してほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	音楽療法ボランティアや専門学校実習生を受入れ、近隣の幼稚園・小学校等との交流がある。また、地域の文化祭や福祉祭り等に参加し、積極的に地域との交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「慈愛の心」「尊厳を守る」「心と心が通じ合い喜びを分かち合い安心と尊厳のある生活を営む」という事業所独自の理念をつくりあげているが、地域密着型の視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回、管理者と職員は、会議等の場において理念についての理解と共有を図り、実践に向けて日々取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	音楽療法ボランティアや専門学校実習生を受入れ、近隣の幼稚園・小学校等との交流がある。また、地域の文化祭や福祉祭り等に参加し、積極的に地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で話し合い、管理者が全職員の意見を集約して取り組んでいる。また、前回評価での改善課題について、改善項目を一覧表にまとめ、介護計画の見直しの期間やマニュアルの作成等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際等を報告、委員からサービス向上に向けての助言・意見等を得ている。また、会議録を家族に開示し、事業所の運営について理解を得られるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政窓口で事業所のパンフレットを置いてもらったり、担当者と情報交換を行う等、行政との連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、経験年数に応じて権利擁護に関する研修を受けている。研修を受けた職員は、他の全職員へ伝達研修を行っている。また、必要に応じて、制度について家族に口頭で説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族来訪時や利用者の状態変化時等、必要に応じて電話による利用者の状況報告を行っている。また、行事等の写真を来訪した家族に見せて配ったり、運営推進会議の記録を開示する等、事業所の報告に努めている。金銭管理については、少額のみ事業所で預かるようにしており、報告はレシートの添付で行っている。	○	家族に対して収支の報告をわかりやすく行うよう検討してほしい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族来訪時に意見等を聴き出すよう働きかけ、また、事業所内に意見箱を設置している。家族の要望等は会議で検討し、外出支援や献立等、それらを運営に反映させている。	○	苦情相談窓口は、事業所だけでなく外部機関も含めて幅広く家族等へ説明してほしい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員との面接や悩みの聴取等の機会を設けて、職員との対話を心がけている。また、やむをえず退職等の異動の際は、引継ぎ期間(3ヶ月)を設け、利用者・家族へ説明し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等とは不問である。また、事業所及び法人は、職員のスキルアップのための資格取得や配置について配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>経験年数に応じて一部職員が研修を受講している。研修資料をいつでも閲覧できるようにしている。</p>	○	<p>人権教育については、全職員に周知できるよう伝達研修を行ってほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は経験年数に応じて研修を受ける機会があり、研修内容は伝達研修で共有している。また、職員の意識向上や自発性の促進のために事業所内で各職員に役割を設け、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2～3ヶ月に1回、地域の複数の同業者と勉強会を開催し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、職員は自宅等へ訪問面接を行い、また見学を必ず実施する等、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は理念を念頭に置き、また、利用者を人生の先輩として謙虚な気持ちでかかわっている。職員は利用者から、行儀作法や調理について教わったり、利用者は職員の労をねぎらう等、学んだり支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向について、本人の表情から把握するように努めている。また、家族から意向を聴くよう努めている。</p>	○	<p>家族の意向に加え、利用者本人の言動や行動から意向をくみ取り、それを具体的に記録してほしい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の希望や職員の気づき、意見等を反映した、一人ひとり具体的な介護計画を作成している。</p>	○	<p>家族の希望や職員の気づきだけでなく、利用者の思いや意向も介護計画に記録してほしい。</p>
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、また利用者の状態の変化や状況に応じて随時介護計画を見直し、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>提携医による往診や通院介助を何日か続ける等し、入院回避に努めている。利用者の入院の際には、家族や医療機関等と連携を図り、早期退院に向けた支援を行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に話し合い、本人・家族の希望のかかりつけ医への受診支援を行っている。また、家族等と情報の伝達方法について話し合って合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針がある。重度化した場合等、繰り返して家族や医療関係者等で話し合いを持ち、職員も含めて全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、日頃から内部研修等により、職員が理念を持って利用者に接するように意識化を図っている。職員は、他の家族や外来者に対して個人情報の漏洩や利用者へのプライバシーを損なわない言葉遣い等、対応に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、レクリエーションの参加は、その日その時の利用者の気持ちや体調に配慮して支援している。起床や食事時間、散歩、ドライブ等、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けをし、また、さりげなく介助を行いながら、同じテーブルで同じ内容の食事を、和やかに食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間はユニットごとに決まっているが、利用者の希望に応じていつでも入浴支援を行っている。入浴拒否者に対しては、声かけ等を行い、利用者に合った工夫をしながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、ラッキョウ漬けや、掃除、食事の準備、カレンダーの日めくり等、利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと等の支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブ等、外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関を施錠していない。職員は内部研修により鍵をかけることの弊害を理解しており、外出傾向のある利用者については、職員の見守りや連絡等で対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルがある。避難訓練は、消防署の協力で年1回行い、その他に、事業所独自で年2回、実施している。非常用食料・備品の準備は、同敷地内の特養で一括準備している。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備などは、事業所独自で準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全利用者の食事摂取量と水分摂取量の記録をしている。管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスやカロリーを管理し、利用者の体調等に合わせた調理をしている。月1回の給食会議で残食報告し、利用者の嗜好や希望を反映する機会を設けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な光や音はなく、空調を設置して冷暖房や換気をしている。ソファに座ってテレビを見たり、玄関前の好みの席に座る等して思い思いの場所で過ごせ、落ちついて居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れたテーブルや化粧台・椅子等の調度品や身の回りの小物を置き、また出窓には額入りの家族の写真を飾っている。各居室は清潔感があり、個性的で、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。